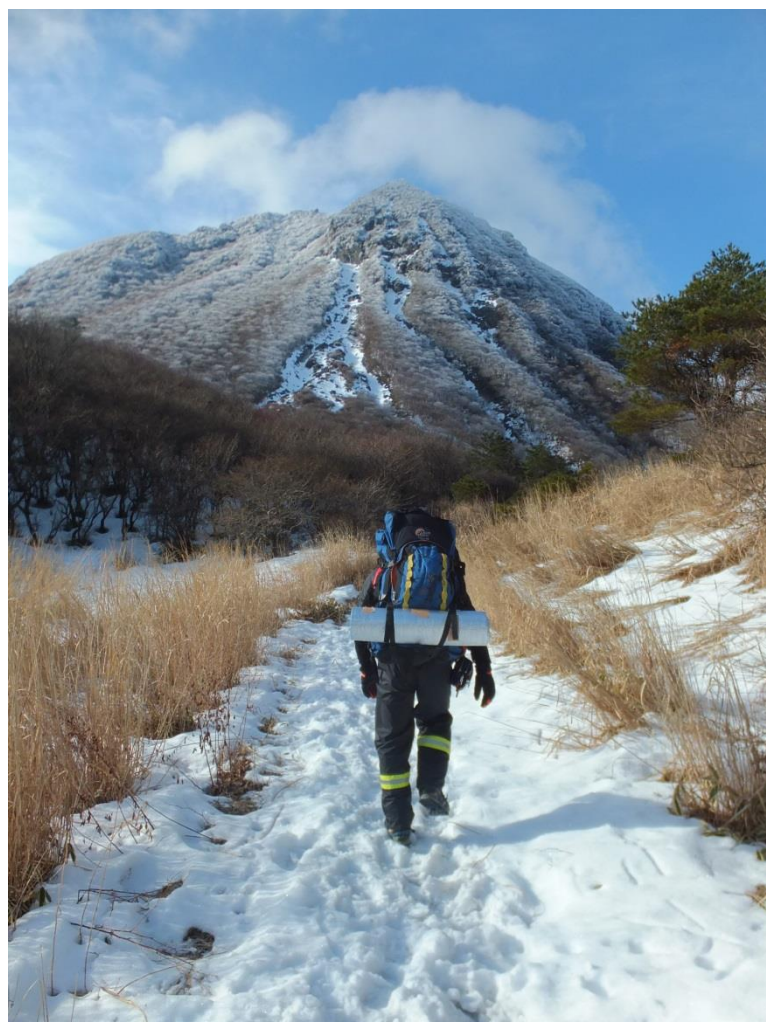


平成25年度版
ワンダーフォークル年報



(春季合宿山行途中の風景)



WANDERVOGEL
Okinawa International University
O. K. W. V

(平成26年4月刊行)

ま え が き

この年報は、本ワンダーフォーゲルの平成25年度中における活動状況などを収録し、将来の参考に資するとともに、活動内容を広く紹介するために編集したものです。

本書が、本ワンダーフォーゲルのみならず、同様の活動を行う仲間の活動に役立つなら幸いです。

なお、活動報告における参加者の年次は、当時の学年で表記しています。

平成26年4月

沖縄国際大学ワンダーフォーゲル

目 次

ワンダーフォーゲルとは	1
部長あいさつ	2
部員関係	
○登録部員総数.....	3
○学科別の登録部員数.....	3
○執行部役員定数.....	3
装備品関係	
○現有装備品一覧表.....	4
活動報告	
○日々の活動.....	6
○新入生歓迎ワンデリング.....	9
○Let's walk.....	10
○夏季合宿.....	13
○嘉津宇ワンデリング.....	14
○春季合宿.....	15
ヤンバルの概要	25
規約	28

ワンダーフォーゲルとは

ワンダーフォーゲル(Wander vogel)とは、ドイツ語の言葉で「渡り鳥」という意味があります。20世紀初め、ドイツの青少年の間に山野を徒歩旅行し、自然と親しみながら心身を鍛えようとする運動が始まり、これがワンダーフォーゲルと呼ばれました。戦後、日本でもこの運動が広がり、現在の高校や大学のワンダーフォーゲル部に至ります。通称、ワングルと言われていました。

過去には琉球大学や沖縄大学にもワングル部があり、お互いに交流を深めたそうですが、現在県内の大学で活動しているのは沖国大のワングルだけになっています。

山岳部とは元々別のルーツなのですが、活動内容は大学のある地域によって差があり「山岳部とはまったく違うもの」というわけでもありません。どちらも、自然の中で活動し、自然を知り、そして親しむということは同じです。

私たちワングル部は山に登るだけでなく、川下りや無人島で合宿をするなど、自然の中なら場所を問わずに活動している点で山岳部とは違うものだといえます。



●部鳥・・・ノグチゲラ

(キツツキ科ノグチゲラ属)

沖縄県の県鳥にも指定されているノグチゲラ。

本ワングルの部鳥としても創部から現在に至るまで、ワングルの象徴として部員に愛されている。

ノグチゲラが部鳥に選ばれた理由は、ヤンバルにしか生息しておらず、本ワングルの活動場所も主にヤンバルということで、活動中に見かけることが多かったからだそうです。

なお、近年の開発による影響で生息数が減少しており、ノグチゲラは国内希少野生動植物種に指定されています。(画像は Wikipedia より)



●部章

本ワングルの部鳥にもなっている「ノグチゲラ」をモチーフにデザインされました。集団活動時などに着用するTシャツなどにプリントされています。

部長あいさつ

又吉拓哉（地域行政3年次）新部長より

今年（1月～12月）ワンダーフォーゲルの部長になりました、又吉拓哉といたします。

今年の活動方針ですが、「積極的に動くことの出来る活動環境の創造」、そして「団結の強化」の二点を重点的に考えています。

まず、「積極的に動くことの出来る活動環境の創造」ですが、これは普段私たちが、月に一度のペースで行っている「ワンデリング」という野外活動があります。その回数を増やす、もしくは、各部員が時間の合うもの同士で気軽に山に行くことが出来るようにするという事です。

また、バスケットボールやフットサルなどのスポーツを通して体を動かすなど、基礎体力を養いつつ友好を深めようと考えています。

こうした動き以外にも、山で必要な技術、例えば「テント設営」「火起し」「飯盒炊さん」などを先輩から教えてもらい、夏季休暇中に行う無人島合宿や、春季合宿の山行で生かせるように頑張っています。

「団結の強化」については、先に挙げた通りスポーツなどを通しての部員同士の交流、またサークル活動以外で食事に行く、ボウリングなどの他に、今まで行ってきた海での交流会、部員の個人宅での交流会も考えています。

この二点の方針を基に、今後もワンゲルが発展成長していくように努力していきます。



大城侑也（経済4年次）前部長より



ワンダーフォーゲルの部長を任命されて1年間、部長職を任せて頂きました。

1年間の職務を行った上で、一番重要だと感じたのは、組織としての統率です。サークル全体を指揮して、統率する事の重要性、身をもって体感できました。その中で、報告・連絡・相談が組織を効率良く動かしていく上で重要だと感じました。

そして、上記には、私自身の行動により改善できる事ですが、サークル活動には部員の一人一人の活動意欲にも大切だと思いました。そこにおいては、とても恵まれていたなと思っています。

1年間、部長職を行ったことで、今までに無い視点で物事を見る様になり、大学生活においても充実した日々になりました。

部員関係

登録部員総数

(平成26年4月1日現在)

登 録 部 員		計
男子	女子	
23	13	36

学科別の登録部員数

(平成26年4月1日現在)

		2年次		3年次		4年次		5年次		計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
法 学 部	法 律	2	4	1	0	0	1	1	0	9
	地 域 行 政	0	0	3	0	0	0	0	1	4
経 済 学 部	経 済	1	0	1	0	1	0	0	0	3
	地域環境政策	1	0	0	0	2	0	0	0	3
産業情報学部	企業システム	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	産 業 情 報	1	0	2	0	1	0	0	0	4
総合文化学部	日 本 文 化	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	英米言語文化	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	社 会 文 化	0	2	0	0	1	0	0	0	3
	人 間 福 祉	2	1	0	1	1	0	0	0	5
大学院		0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		7	7	8	4	7	1	1	1	36

執行部役員定数

部 長	1
副部長	2
会計係	1
書記係	1

※会計係及び書記係については、
係補佐役1名を設置しています。

装備品関係

現有装備品一覧表

(平成26年4月1日現在)

番号	品名	数量	内訳等	購入年月日	経過年数	備考
1	テント	2	4人用×1 6人用×1	不明	不明	OB 寄贈 モンベル製
2	テント	1	6人用×1	平成25年8月4日	0	モンベル製
3	ザック	15	40ℓ×4 45ℓ×1 55ℓ×3 100ℓ×2	不明	不明	OB 寄贈
4	ザック	1	45ℓ	平成24年	2	モンベル製
5	ザック	1	60ℓ	平成26年2月	0	モンベル製
6	ザックカバー	8	—	平成25年2月	1	
7	シュラフ	18	夏用×14 春秋用×4	不明	不明	OB 寄贈
8	銀マット	16	幅45cm×1 幅50cm×11 幅60cm×4	不明	不明	OB 等寄贈
9	アイゼン	6	軽アイゼン	平成24年	2	
10	アイゼン	3	軽アイゼン	平成25年	1	
11	シャベル	3	中×2 携帯型×1	不明	不明	OB 等寄贈
12	ストーブ(火器)	2	—	不明	不明	OB 寄贈
13	カセットコンロ	2	—	不明	不明	OB 寄贈
14	ポイズラムパ	2	—	不明	不明	ハブ対策
15	トッキングポール	1	1組	不明	不明	OB 寄贈
16	ハーネス	1	1組	不明	不明	OB 寄贈
17	ロープ	3	3ピッチ	不明	不明	OB 寄贈
18	ポリタンク	7	伸縮型	不明	不明	OB 等寄贈
19	水缶	2	15ℓ	不明	不明	OB 等寄贈
20	クーラボックス	1	—	不明	不明	OB 等寄贈
21	ブルーシート	3	—	不明	不明	OB 等寄贈
22	ブッシュナイフ	1	45cm	不明	不明	OB 等寄贈
23	飯ごう	3	—	不明	不明	卒業記念品
24	コッヘル	2	—	不明	不明	OB 等寄贈
25	鍋	1	—	不明	不明	OB 等寄贈

26	フライパン	2	—	不明	不明	OB 寄贈
27	バイル	32	小×7 中×25	不明	不明	OB 寄贈
28	まな板	2	—	不明	不明	OB 寄贈



日々の活動

日々の活動に関して写真と共に紹介していきたい。

●毎週木曜日の定期集会（常会）

毎週木曜日の12:20~12:50の時間に、部室もしくはサークル棟2階の共同室にて常会が行われる。常会では次回の活動や部員からの提案などについて話し合われる。



図1 総会の様子

●鍛錬

日々の鍛錬は個々の自主性に任せてある。主にスポーツを通して身体を動かす者が多い。（バスケットボール、キャッチボール、歩荷、ロッククライミング etc.）



図2 キャッチボールの様子



図3 時には時間のあうもの同士で山に遊びに行くこともある。

⇒各々のスポーツ経験を生かし、互いに教えあい、身体を動かし、さらには絆を深める。

●講義

山行における基礎基本を経験者がレジュメを通して伝える機会を設けている。これは昨年度からの新しい試みでもある。※巻末添付資料参照



図4 テント設営



図5 飯盒炊爨（模擬）

●交流会

山の男女達にとって不可欠とも言える。時には砂浜で、時には部員の個人宅で行う。腹の底から笑い合い、団結をより強固なものとする。



図6 宮城島にて



図7 個人宅にて

以上のことから分かるように、組織内の絆・団結は各活動を通して高められ、自然の中で不可欠となる「協力する力」を養っている。また個々の提案を大切に、皆で話し合い、実行に移せるよう努めている。

報告者：猿渡航河→



活動報告

【平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）の活動実績報告】



【5月】新入部員歓迎ワンデリング（与那覇岳）

5月2日（木）～3日（金）

参加者：1年次3名
2年次4名
3年次5名

報告者：3年次 又吉知樹

今回の新歓ワンデは前年に引き続き与那覇岳でした。久々の山登りということもあり皆緊張していましたがそのためか特にけが人も出ず、いいペースで登ることができました。

今回のワンデの一番の収穫は、お互いをフォローしながら登ったチームプレーを育めたことだと思います。たとえば一人が鍋や食料など重いものを長時間持たないように何人かで交代して持ったり、聴覚に問題のある人には二人で付き添ったり士気が落ちた一年生に励ましの声をかけたりなど、素晴らしいチームプレーを築きあげ、登山とは個人の力のみで行うことではないと再確認することができました。

ただ、いくつかの問題点もありましたので記述したいと思います。

与那覇岳の登頂は二回目であるにも関わらず道を間違えてしまうというハプニングがありました。これはしっかり地図読みができていなかったために起こった事態だと反省しています。また2日目の朝、寝坊する部員がいる、鍋やシュラフの片付けに手間取るなどが原因で予定の出発時間を大幅におくれてしまいました。

次回からは前日のうちに出発の準備を済ませるなどの対策をしようと考えています。



【6月】Let's walk (58号コース) 6月22日(土)～23日(日)

サポーター編 報告者：4年次 新垣大吾

参加者

ウォーカー：1年次6名 サポーター：2年次6名
 2年次4名 3年次7名
 4年次1名

〈はじめに〉

Let's Walk は沖縄国際大学を出発地点として、名護までの約 60km という道のりを歩くという活動である。沖縄国際大学ワンダーフォーゲル (OKWV) 創設当初から行われている伝統的な活動であり、全盛期には琉球大学ワンダーフォーゲルと合同で行い心身共に鍛えていたという。そんな伝統ある活動の報告を行う。



〈内容〉



Let's Walk は、58号線と330号線を歩く2コースあり、1年ごとに交互にコースを変えている。今回は58号線のコースで行った。

主なサポーターの役割としては、各休憩ポイントでの給水・マッサージ・その他ねんご等の負傷の応急処置を行っている。

Supporter によるコースの下見、休憩ポイント利用許可願い、打ち合わせ、OB・OG への連絡が事前に行われて当日を迎えている。当日は出発前の最終確認・

当日の準備があるため Supporter は 10 時に集合、講義があるため Walker は 15 時に集合した。

事前の説明・準備体操を行い、6/22 の 15 時 57 分に沖国大を Walker が出発。その後、16 時に分担された配車につき Supporter も出発した。出発後は休憩ポイントを基点として、先着隊・Walker の現在地点確認隊・フリー隊に分かれた。歩くスピードにバラツキがあるため、Walker 確認隊とフリー隊が先頭と最後尾を常に確認しながら、先着隊に連絡をとり各ポイントでの休憩時間を臨機応変に決めていった。

休日ということもあってか 58 号線に出ると混雑していた。そんな中休憩ポイントに向かう道中にて、Y ナンバーの普通乗用車が交差点で事故を起こしていた。スタートしてそれほど時間が経過していなかった事と Walker に注意を払っていた事もあり、不測の事態にならないよう気が引き締められた。その後は大きな問題もなく、順調に進んでいった。



日が落ち始める頃になったので、Walker には事前に準備させたヘッドライト（ヘッド電）を持たせた。ほとんどの場所は街灯や建物の光で明るいのだが、嘉手納基地周辺・読谷村琉球村周辺は街灯がない場所もあり、Walker の身の安全と Supporter の確認目印としてとても重要な備品の一つになる。ネーブル嘉手納まで来ると、Walker の足にもダメージが蓄積しはじめ Supporter がマッサージを行う人数が増えてくる。ここからはほぼ毎回の休憩地点でマッサージが行われた。読谷に近くなったところ



で、Walker の一人が古傷の膝が痛み出したという事でテーピングを行い、冷却スプレー・氷嚢で冷やしながらかサポートした。



事前の連絡・伝統的な行事ということもあってか、深夜にもかかわらず OB・OG の方々が激励に訪れてくれた。このときには多くの差し入れをしていただき、Walker・Supporter 共に助けられた。こういったつながりが卒業してもあることはとても誇らしく思う。

終盤になると Walker の先頭と最後尾との距離がかなり開いていた。最後のポイント許田 IC 付近の交番までくると、先頭は先について長く休憩していた。だが、交番は Walker が歩いている場所とは反対にあり最後尾の疲労、時間、最後に待っている許田からローソンまでのマラソンの事（許田+ダッシュ=許田ッシュ）を考えると非常に効率が悪かった。そのため、急遽最後尾のメンバーのみ休憩ポイントを高架橋下に変更した。そうすることで、休んだ後そのまま許田ッシュに移行できた。このとき 6/23 の 11 時 40 分になっていた。許田ッシュがスタートすると Supporter はバスがくるまでの休憩地点の確保を行った。

例年は名護城趾の広場を利用していたが、バスが大型になるため、そこまで入ることができずやむを得ず変更することになった。その間にも許田ッシュでは 1 位が 12 時 30 分にゴールした。ゴール地点駐留班・移動班・休憩地点確保班に分かれ、ゴールした数名から休憩地点に移動していった。最後のゴールを 13 時 24 分として Let's Walk を終了した。



終了後は少し休憩をはさみ、15 時に Walker はバスにて、Supporter は各自家用車にて沖国大に向かう。16 時 50 分に到着解散した。

〈終えての反省〉

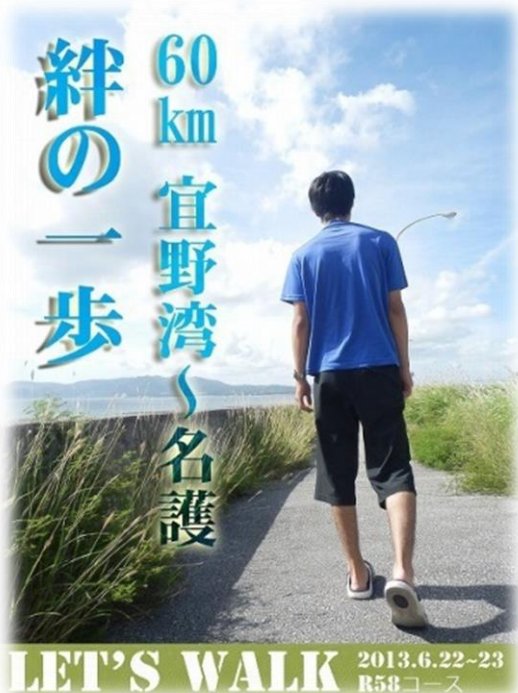
- ①後半時間が押したため、皆でゴールを迎える事ができなかった。休憩時間の短縮やバスの時間変更も視野に入れる必要があった。

②休憩ポイントの急な変更があったが、事前に話せていなかったこともありより臨機応変な対応ができるよう準備段階から話すべき。

③テーピング・冷却スプレー・氷嚢の数が足りなかった事、テーピングの方法を全 Supporter で認知していなかった事がある。今後学んでいく必要がある。

《サポーター編終わり》

ウォーカー編 報告者：2年次 新垣瑛美



6月22日(土)、沖縄国際大学を出発。途中、休憩をとりながら6月23日(日)、全員那古に到着。無事に完走(歩)出来なければ、来年もまた歩くと聞いていたので、絶対に完走すると心に決めていたけど、実際に歩くと想像以上にきつく、途中で心が折れそうになったけど、先輩が他のサポートのおかげで最後まで歩ききることが出来たのでよかったです。

Let's walk を歩ききったことで、自分も成長することが出来たと思います。この経験を日ごろの生活にも生かせることが出来るように頑張ります。

《ウォーカー編終わり》



【9月】夏季合宿（座間味村安室島）

9月2日（月）～4日（水）

報告者：4年次 小野沙織

参加者：1年次4名
2年次3名
3年次3名

無人島合宿とは、夏休みを利用して無人島へ行き、心身の鍛錬を試みるイベントである。

しかし、この実施日に運悪く台風が近づいてしまった。私たちは、ぎりぎりの天候の中で那覇の泊港から座間味島には渡れたものの、村民から危険なため無人島へは渡らずに座間味島に留まるようにと告げられ、やむを得ず期間中を座間味島で過ごすことになった。

例年は座間味島付近にある無人島にて、食材はすべて現地調達での生活を行うといった



ような、サバイバルにおける技術を磨いてきたが、今回は悪天候で幕営することも出来ないため、特に目立った行動をすることも出来ず、施設における集団生活を送る合宿となってしまった。

今回の合宿は悪天候が続き、残念な結果となってしまったが、船の手配や装備の設定など、その過程において学びはあった。来年こそは天気の良い無人島合宿に挑戦したい。



【12月】嘉津宇ワンデ（嘉津宇岳ほか） 12月8日（日）

報告者：4年次 猿渡航河

参加者：1年次5名
2年次3名
3年次5名

例年は「直登」を選び、入山してまもなく、藪こぎ（木々をかき分けること）しなければ進めなくなり、斜面も急になるようなルートを選択していた。しかし、今回は隊のレベルも鑑みて正規の登山道を進むこととなった。



だが、急な登りであることに変わりはなく、隊員の一人がここで体調を崩す。このレベルのこの配で体調を崩す事態が前回は発生していることを考えると、部員にはさらなる鍛錬の必要性を感じたところである。ともかく、少し休むと体調も回復したようなので再び進む。すると鋭い突起のある岩肌に差し掛かった。このようなところで転びでもしたらひとたまりもない。体全体を使って上り進めた。

三角山、安和岳の山頂、さらに尾根からの景色は爽快なものである。



自分の周りにはその位置よりも高いものはなく、すべてを見渡せた。

そうこうして進むうちに、嘉津宇岳山頂にたどり着いた。所要時間は約4時間30分である。みんなが無事に山頂にたどり着き、この景色を眺めることが出来てよかった。その後、無事に下山を終え、帰路につくこととなった。



先述したような課題の発見、後輩の育成にもなったことから、部のさらなる成長への礎となるワンデリングとなったように私は感じた。



【2月】春季合宿（大分県くじゅう連山） 2月27日（木）～3月4日（火）

報告者：2年次 大城徹郎

参加者：1年次3名
2年次3名

〇はじめに

沖縄で体験できない高さの山に挑戦！ということで例年同様九重連山に登りに行きました。今年の山は例年より雪が多く積もっていたので沖縄とは完全なる別世界…という風景が広がっていて、当時一年生である私(大城徹郎)や他の皆の心はずみました。しかし、そう楽しいことばかりではなく、天気が悪くなって雨が降ったり、霧が出たりして、山登りする環境としては大変でした。しかし、又吉部長の的確な判断や、全員の臨機応変な行動など、連携して活動をしていき、自然の脅威を苦とせず、皆の笑顔に溢れた合宿になりました。これこそが沖国ワンダーフォーゲルの強みであり、参加する醍醐味であると合宿で感じました。

2/27(木)1日目

- 09:37 那覇空港、合宿メンバー全員集合
- 09:50 荷物を預ける
- 11:00 各自ご飯
- 11:10 ゲート前にて集合写真
- 11:30 搭乗口
- 11:55 那覇空港発、福岡へ！
- 13:40 福岡空港着
- 14:07 地下鉄へ歩く
- 14:10 切符購入
- 14:16 福岡空港駅発
- 14:26 中州川端駅着（スマイルホテルまで徒歩）
- 14:41 スマイルホテル着、チェックイン&1時間の休憩
ホテル部屋割り
 - ・美貴、玄之介
 - ・浩大、和久
 - ・徹郎、拓哉
- 15:11 買い出し（好日山荘へ）
- 15:27 28Bの蔵本バス停発
- 15:34 天神3丁目着、降車（好日山荘まで徒歩10分）
- 15:44 好日山荘着（団体でガス缶、フリーズドライ購入）
- 16:14 各自買い物
- 18:50 一風堂着。（全員で夕食）
- 19:30 一風堂を後にする
- 20:00 ホテル方向と逆の方向に進んでいた為、バスで帰宅することにする。
- 20:29 天神バスセンター前、発



20:39 川端町、着
20:53 スマイルホテル着
21:10 明日の行動確認、反省会
21:30 お風呂
23:50 就寝

2/27 1日目 反省

時間通りに進めたので特になし。本番は明日からなので、気を引き締めながら楽しんでいこう！

2/28(金)2日目

天気予報（過去の気象情報より抜粋）

気温…平均：8℃ 最高：9℃ 最低：2℃

天気…晴れのち曇り

風…最大：3.3m（北北東） 最大瞬間：6.4m（北北東）

07:00 起床
07:05 朝ごはん
07:43 玄さん、ホテルの領収書受取
07:48 スマイルホテル、チェックアウト（玄さん銀マ忘れそうになる）
08:11 切符購入が時間に余裕がない為、拓哉さん（予約）と玄さん（会計）が先に天神へ向かう
08:29 中州川端駅、発（先行列車がつかえて発車が遅れる）
08:32 天神駅、着（西鉄バスセンターへ）
08:38 西鉄バスセンター、着
（間に合わず、次のバスに乗ることになる）
08:53 時間のずれ、変更を全体で確認
10:15 西鉄バスセンター 別府行発
12:05 九重インター 着
12:12 九重インター 山口行き発（路線バス）
13:09 九重登山口みやま前・花山醉前着（HITA バス、616 登山口）長者原到着
13:10 昼食準備
13:41 登山入口で集合写真撮影、出発（登山開始）
14:14 雪が多いのでアイゼンを着用
14:31 休憩。（5分）上り坂が多い。
15:00 休憩。（5分）女子にはキツイ。左方に滑落しそうな場所を発見。
15:45 休憩。雨ヶ池。（約6～7分）
雨ヶ池からは平坦、下りの道なのでノンストップで進行
16:58 坊ガツル着
雪があるのでテントは設営困難と判断。とりあえず避難小屋に荷物を置き休憩。
17:33 避難小屋を出発（お風呂へ）



17:50 法華院到着。

その場で話し合ったこと

- ・避難小屋付近には、他の登山者のテントが2つある。しかし他の場所に立てるとなると厳しい。
- ・他の人には申し訳ないが、1日は避難小屋で一泊させてもらう。
(次の日にその人たちが帰ったらもう一泊する)

19:00 お風呂。服を乾かす作業。(ストーブの取り合い)

19:45 法華院を出発。

20:00 避難小屋到着(避難小屋で自分たち以外の登山者が寝ていた)

20:30 調理開始(水炊場)

水が沸騰するまで大富豪で決戦

21:38 料理完成。いただきます!

21:55 完食、片付け

22:05 反省会

22:18 反省会終了。就寝。



2/28 2日目 反省

浩大

: 意外と詰めていない装備があった。(タオル等)

: サブザック大きすぎ、体力消耗。2, 3人殴った。(サブザックで) 申し訳ない

玄さん

: 忘れ物多くてタイムロスしてしまった。

和久

: 歩いているときオーバーヒートした。

美貴さん

: 朝の集合から時間にルーズ。積み重なってのあのバスの遅れなのかも。

: 色々な情報不足(地下鉄の時間等)、バス乗り遅れの一因。申し訳ない。

: 体力、歩くペースかなり足引っ張ってしまった。ごめんなさい。

徹郎

: 朝のトイレの一件。申し訳ない。体調管理に気をつけたい。

: 山の登るペースが最初遅かった。でも、時間通りに登れて良かった。

: 明日も皆のペースで。ストレッチして寝るように。

拓哉さん

: 色々あったけど、無事ついて良かった。全員から反省上がっているし、明日、無事登れたらがんばろう。

: 全体的な情報不足と準備不足が多い。

: 来年はメンバー考えるのもアリ? バイト生が多すぎて話し合いができない。

: 積雪の中ここまで来られたのはよし。

3/1(土)3日目

天気予報（大船山）

登山指数…9時：○ 12時：△（風雨あり。やや適さない）

天気…9～12時：曇り 15時以降：雨（竹田市）

気温…2000m 9時：1℃ 12時：2℃ 15時：1℃ 18時：2℃ 21時：1℃

1000m 9時：4℃ 12時：2℃ 15時：3℃ 18時：4℃ 21時：3℃

風…2000m 9時：北東 7m 12時：北東 10m 15時：北東 10m

18時：北東 9m 21時：北東 6m

1000m 9時：北東 5m 12時：北東 5m 15時：北東 5m

18時：北東 5m 21時：北東 2m

※北大船へ向かい、様子を見て大船へのアタックを判断、
少しでも「危険がある」と判断した場合は戻る

05:10 全員起床

06:00 朝食準備（水炊場にて）トランプ！

06:56 いただきます！

07:10 完食、片付け

07:40 拓哉さん、徹郎で本日のアタック会議

08:23 登山開始。（北大船へ）避難小屋のすぐ隣が登山口。

09:20 第一休憩。昨日よりも雪が柔らかく、足がとられやすい。

道中、かなりの積雪に足の付け根まで雪で
埋まる。（スパッツの必要性を感じた）

09:35 5合目到着

09:40 去年の「沖国大」と書かれた石を発見

10:10 ルート確認のため一時停止

10:25 段原到着。（ここから北大船まで10分、
大船25分に行ける道がある）

ここで雨が降ってきたので、安全を考慮し
下る。

10:33 徹郎、滑り台開拓、サブとしての実績を残す。

11:24 拓哉さん、アイゼン紛失し玄さんと来た道に戻る。他4人は先に避難小屋へ。

11:30 動物の足跡発見。

11:34 避難小屋到着。（ノンストップで下った。）



話し合い

・午後から雨になる予報（現時点で小雨）である状況から安全を考慮し他の山に登るのは断念

・明日に備えて風呂、乾かし作業の為、法華院へ

12:35 法華院到着。美貴さん拓哉さん雪合戦。

13:34 お風呂から上がり、服類を乾かす作業へ。現時点でかなりの雨。

- 15:54 ずっと乾かしていたかいあって濡れていた靴も完璧に乾く。
- 16:40 避難小屋に戻る。アイスを食べた。
- 17:00 美貴さん、拓哉さん、徹郎で会話。他の人は寝ていた。
- 18:30 避難小屋に来た他の登山者さんとお話した。とてもいい人達で熟練の方なのか装備もキチンとしていた。(コンパクト的に)
- 19:00 夕飯の調理開始。(避難小屋にて) その合間に反省会。
- 20:00 フリーズドライにお湯を入れて完成。
- 20:25 完食。初フリーズドライは美味しかった。
- 就寝——

3/1 3日目 反省

浩大

: もう少し防寒しても良かった

玄さん

: 雨で北大船まで行けなかったけど、あのまま行っていたら雨に濡れていたから拓哉さんの判断は良かった

和久

: 足元の防寒。特にスパッツで寝るとき。

美貴さん

: 雨で残念だけど、登れるところまで登れて良かった。

徹郎

: 大船まで行けなかったのは悔しいけど、雨による判断は的確だと思います。

拓哉さん

- : 初日で自分たちだけで段原まで行けたのは良かった。登頂はできなかったけど登れたし。
- : トレッキングポール持っていたても良かったかも。
- : 朝食からのすぐの行動も良かった。



3/2(日) 4日目

天気予報 (過去の気象情報より)

気温…平均: 4°C 最高: 6°C 最低: 0°C

天気…1日中曇り

風…最大: 北北東 4.6m 最大瞬間: 北北東 8.9m

- 06:30 全員起床。予定より遅い起床。さらに外は霧が濃い。
- 07:00 朝食調理開始。
- 07:42 ガス缶がなくなってしまったので玄さん、拓哉さんで法華院に買い出し
- 08:42 玄さん、拓哉さんが戻ってきたところで朝食。
- 09:00 1年勢、山荘へ



09:40 完食。霧が晴れてくる。
10:11 和久、さりげなく小屋内のゴミ拾い
10:12 登山開始（久住山）。法華院の裏手の登山口から出発。
10:28 法華院でトイレ（4分）
10:52 アイゼンを着用する為一時停止、（4分）雪が多い。
11:15 北千里到着。ガスは発生していないが、霧が迫ってきていることからこれ以上進むことを断念。
12:06 法華院到着。
12:40 避難小屋でお昼ご飯。
13:03 山の中腹から霧がかかっていた。これは登れそうにもないので法華院へ。
13:33 法華院到着。
16:10 風呂場から行ける参拝道へ。徹郎、玄さん、和久の3人で長靴を履いて行ってみた。
16:35 風呂、乾かし作業完了
17:05 避難小屋到着
17:15 夕飯調理開始（避難小屋にて）
18:00 完成、いただきます。
18:30 トイレに法華院へ。霧は一層濃くなっている。
18:45 法華院にて反省会
18:58 反省会終了
19:15 浩大、和久、徹郎で先に避難小屋に戻る。
19:31 雪が降った。水炊き場が凍っているらしい
——就寝——



3/2 4日目 反省

浩大

：朝グダグダしすぎた。怪我はなかったから、全然合宿として良かったのでは。

玄さん

：2日間天候が残念だったけど、登れる山を選んで登れたからよし。

和久

：朝皆起きず。山下るとき派手に下りすぎて濡らしすぎた。

美貴さん

：引きこもっているだけでなく、自分達の力量を分かったうえで登れるところまで登って、かつここままで限界っていう線引きをできて、皆がその判断に納得して帰ってこられたのは良かった。

拓哉さん

：ポーっとするでもなくアタックできたのも良かった。待機から準備をしてすぐ動けたのも良かった。

：朝アラーム消してすいません

：行く前の備品チェック入念に（アイゼンの件）
スパッツ必需だった。部費購入も有り。

3/3(月) 5日目

天気予報（過去の気象情報より）

気温…平均：4℃ 最高：9℃ 最低：-1.9℃

天気…晴れ時々曇り

風…最大：4.8m（北東） 最大瞬間：9.8m（北北東）

03:40 浩大、徹郎、起床。米を炊くために米を水につけておく。

04:08 浩大と徹郎、トイレ。水たまりが凍っていることに感動。

05:04 朝食準備開始。

05:20 朝食完成、全員起床。

05:35 完食。水に漬けていた甲斐あって一番美味しかった。

下山の為荷詰めをする。

07:40 準備、避難小屋片付け完了。坊ガツル出発。

08:25 最後に坊ガツルが見える場所から坊ガツルに別れを告げる。

道中、霜が降りていて綺麗だった。

08:38 雨ヶ池到着。5分の休憩。

09:50 下山完了。（雨ヶ池から下り坂でノンストップ）
バスがくるまで自由時間。

10:30 全員でお昼ご飯。だんご汁定食美味しかった。

11:00 和久、徹郎、温泉へ。

11:40 お風呂の後はお土産物色。

12:12 登山口発

13:19 豊後中村駅着、タクシーに乗って九重インターへ。

13:22 九重インター到着

13:32 日田バス高速（天神福岡発）

※予定では 15:22 にバスに乗ることになっていたが、席が空いていて
運転手と交渉すると予定よりも早い便に乗ることができる。

15:20 西鉄高速バスセンター到着

15:35 浩大が財布なくしたと言い出す。

15:40 タクシーに財布を忘れていたことが判明、家に届けてもらうことに。

16:00 西鉄バスセンター前発

16:10 土居町着

16:23 スマイルホテル着

部屋割り

- ・徹郎、浩大
- ・玄之介、和久
- ・拓哉、美貴

16:45 銭湯へ



18:04 お風呂上がる
18:34 スマイルホテル近くのチョコレートショップへ（自由時間）
20:30 夕飯食べに出発
20:59 一蘭で夕ご飯
21:50 完食。スマイルホテルへ。
22:05 スマイルホテル着
22:10 反省会

3/3 5日目 反省

浩大

：財布忘れてすみません。忘れ物確認はしっかりしないといけないと思いました。
：食当としての責務意識をもっと強化したい。

玄さん

：耐寒の装備をもっと多く（強化）してもいいと思った。

和久

：不安はあったけど、スムーズに行けて、怪我もなくて良かった。

美貴さん

：思ったよりも早く下山できて良かった。ペースもよくて、福岡に帰るときも臨機応変に移動できてよかった。

徹郎

：忘れ物確認はしっかり。
：何事もなく、また皆と仲良くなれて良かった。

拓哉さん

：装備確認をもっとしても良かった。時間も早く行動できていたので良かった。

3/4(火) 6日目

07:30 起床
08:00 徹郎、浩大、和久、玄さんのみで朝食
08:45 拓哉さん達を起こす。荷詰め、部屋片付け
09:50 フロント集合、チェックアウト
10:05 ホテルから出た後、美貴さんが銀マを取りに戻る。
10:08 拓哉さん、ホテルにショルダーバック忘れる。
11:00 中州川端駅に到着。
11:17 博多駅向けに、中州川端駅発。
11:23 博多駅到着。駅のロッカーに荷物を預け、各自自由行動。
15:00 ロッカー集合。
15:13 福岡空港向けに博多駅発
15:18 福岡空港駅到着。
15:21 搭乗手続き。

15:41 手続き、荷物預け完了。
15:45 反省会。その後自由行動。
17:10 福岡空港発。
18:45 那覇空港着。
19:15 勇人さん、沙織さんがお迎えしてくれました。ありがとうございます。

——各自解散——

3/4 6日目 最終反省

浩大

：お金を借りてまできて（山の綺麗な風景とかみられて）良かった。

玄さん

：忘れ物に関して、もっと意識していかないといけないと思う。

なにはともあれ、楽しかった。

和久

：皆、体調管理はしっかりと。

：いい経験になった。

美貴さん

：不安材料は多かったけど、安全安心に山を登って帰れたのは良かった。

：皆と行けて良かった。

徹郎

：もっと先輩方のサポートをしっかりとやれば良かった。

まだまだ足りない。

：次はしっかりとした計画を皆で練りたいです。

拓哉さん

：皆が全部言ってくれたから俺からいうことはない。

：先輩方に色々言われ心配かけたが、

無事帰って来れて良かった。



ヤンバルの概要

●与那覇岳（498m）

与那覇岳は沖縄本島で一番高い山であり、一般の人々にも名が広く知られている。

この与那覇岳に我々の活動は行われている。周辺は自然の宝庫と言われ“ノグチゲラ”や“ヤンバルクイナ”、イノシシなどの鳥獣類が多く、与那覇岳天然保護区域に指定されている。

しかし最近、山林の伐採などのための与那覇岳周辺は荒れつつある。与那覇岳の9合目までは車で行くことが出来、頂上まで30分ほどでつくことが出来るため、一般の人々もピクニックなどで気軽に登れる山である。

●玉述山（288.9m）

玉述山は我がクラブに最も古くから知られている山で、与那覇岳に次ぐ活動の場となっている。

288.9mの低山ではあるが、頂上への急なのぼりとその眺めのために、高さを意識する山である。玉述山からの樹海は緑の絨毯を敷き詰めたような広さを感じる。

ちなみに、玉述山はその姿が女性の胸に似ているため、一般のワンダラーの間では別名「おっぱい山」とも呼ばれている。

●伊湯岳（446.2m）

東村と国紙嶺との境界線上に位置している。

頂上まで半地から林道が通っていて、446.2mの山であるが頂上を林道が横切っているため、そこを知らずに通り過ぎてしまうこともある。

伊湯岳は南部コースの与那覇岳へ向けて通過する山である。

●フェンチチ岳（390m）

フェンチチ岳は、与那～安田へ抜ける横断道路の右手から、フェンチチ方面へ20分ほど行くと頂上へ行くことが出来る。

頂上は大きな岩があり、常に風が強く吹いている。360°の展望の景色は普久川ダム、安波ダムが見ることが出来、爽快そのものである。フェンチチ岳は以前「すすきが原」と呼ばれていたが、その名の通り、頂上までの道にはススキが多く茂っている。

頂上への道・山頂はどちらともヤンバルの山とは違ったアルプス的な山のような気がする。

●照首山（395.2m）

照首山は、西銘から続く北部コースの山である。

三角点から2時間程度で山道から右手の方へ1分程度で頂上へ行くことができる。頂上に立ってみても周りは木とススキが茂っていて景色は見る事が出来ず、「頂上」というイメージをくずされてしまう山である。3、4分で横断道路に出ることが出来る。

●伊部岳（353.7m）

伊部岳という山の形に特徴がありその姿は、北アルプスの白馬岳に似ていてヤンバルの山の中で美しさで有名である。頂上はヘリポートになっていて、眼下に牧場や奥部落、青い海原が広がり、その眺めはすばらしい。

伊部岳から見る朝日はまるで沖縄の山からの眺めとは感じさせない神秘的な印象を受ける。伊部岳へ短時間で登るには横断道路から40分程度の急な登りを頑張って登ると開けた頂上に出るこ

とが出来る。

●西銘岳（420.1m）

西銘岳は国頭村で与那覇岳に次ぐ2番目に高い山である。そこから奥部落をほぼ全体に見渡すことが出来る。

西銘岳を通るコースは座津武コース・奥コース・宜名真コースの3コースで、辺野喜コースはピストンとして登る。この様に北部コースで最も多く知られている山である。

なおこの西銘岳にはダニが多く生息しているため、腰を下ろすときには十分注意する必要がある。奥部落から見る西銘岳は、頂上に立っている鉄塔があるためひと目でその位置がわかる。

●尾西岳（271.6m）

東海岸に面した尾西岳は、奥部落と伊江部落との境に位置している。標高は271.6mと低い山であるがその展望は、東に青く澄み切った海岸線、南西には西銘岳、北には遠く与論島がお会い大海原にぼっかりと姿を浮かべその眺めはまさに「素晴らしい」の一言である。

最近では頂上付近まで新しい林道が出来たので、そこから30分程度で頂上に立つことが出来る。



沖縄国際大学ワンダーフォーゲル
規約

第1章 総則

- 第1条 当部は「沖縄国際大学ワンダーフォーゲル」と称し、本部を沖縄国際大学構内に置く。
- 第2条 当部の目的は、自然に親しみ、部員の健全なる精神と身体を育成し、以て相互の友情を育み、常に親睦を図ることとする。
- 第3条 当部は前条の目的達成のための、種々の活動を行う。

第2章

一節 役員の名称

- 第4条 当部には下記の役員を置く。

- 一. 顧問
- 一. 部長
- 一. 副部長
- 一. マネージャー
- 一. 出版係（昭和51年定期総会に於いて企画係から改称）
- 一. 会計係
- 一. 装備係
- 一. 食糧係
- 一. 記録係
- 一. 写真係
- 一. 衛生係
- 一. 資料係
- 一. トレーナー係
- 一. 山小屋建設係（昭和56年より保留）

二節 各役員の任務

- 第5条 各役員は担当の任務に対し全責任を負う。
- 一. 部長は部務を処理し、部員全員を統制する。
 - 一. 副部長は部長を補佐し、部長の不在時にこれを代行する。
 - 一. マネージャーは当部における渉外を任務とする。
 - 一. 出版係は企画書、報告書及び諸発行物の編集を任務とする。
 - 一. 会計係はクラブ費の徴収並びに部予算に関する収支を行い、及び記録決算報告書を作成する。
 - 一. 装備係は装備室を管理し、装備の購入、保管及び整理、点検に当たる。
 - 一. 食糧係はワンデリングに於ける食糧全般を担当する。
 - 一. 記録係は部務に関する記録を任務とする。
 - 一. 写真係は部に関する写真全般を任務とする。
 - 一. 衛生係は薬品の購入管理及び健康に関する指導を任務とする。
 - 一. 資料係はワンデリングに関する資料の作成及び管理に当たり、備品の管理及び貸し出しに当たる。
 - 一. トレーナー係はトレーニングに関して、責任を負う。

一. その他

三節 顧問

第6条 顧問は、役員会が沖縄国際大学教員に委託する。

第7条 顧問は、ワンデリングの承認指導助言に当たり、そのほかの活動に助言を与える。

四節 役員会

第8条 役員の任期は、毎年12月の総会后より翌年の総会までとする。

第9条 役員会は、第4条の顧問を除く役員で組織する。

第10条 役員会は、部長または副部長を含む役員の3分の2以上を持って成立する。議決は出席役員の過半数を持って決定する。

第11条 前条の議決に対し、部長は再審議を要求することが出来る。

第12条 役員会の任務は次の通りとする。

一. ワンデリング企画

一. 集会の発議及び審議

一. 予算審議

一. 役員人事

一. 個人に対する警告、除名

一. 規約改正の発議及び審議

一. その他

第13条 部員は役員会の要請に応じて、役員会に出席し参考意見を述べる事が出来る。

第3章 総会及び集会

第14条 当部は毎年1回、12月に定期総会を開催する。

第15条 定期総会は、部の規約の改正、その他の重要事項を承認し、部員の過半数の出席のある場合、成立する。議決は3分の2以上とする。

第16条 前条に於ける承認が得られない場合は、役員会は再審議しなければならない。

第17条 部長は役員会及び総会を主宰し、総会の決議を執行し、役員会及び総会の統制について全責任を負う。

第18条 部長、役員会または部員の3分の1以上の要求がある場合、部長は臨時総会及び集会を1週間以内に開催しなければならない。

第19条 当部は、毎週1回定期集会を開催する。

第20条 定期集会は、役員会の発議に基づき、承認議決し、部員の過半数の出席のある場合成立し、議決は出席部員の過半数で可決する。

第21条 前条に於ける承認及び決議が得られない場合は、役員会は再審議しなければならない。

第4章 部員

第22条 入部希望者は当部の規約了承の上、登録を以って入部を認める。

第23条 クラブ員は部の規約を遵守し、当該活動中は、リーダーの命令に従わなければならない。

第24条 入部費、部費納入の義務を負う。

第25条 部長は部の規約を違反し、又は部の名誉を汚した部員を役員会の決定による警告、あるいは除名処分にすることが出来る。

第26条 前条以外で部員が大部、休部するときは部長に届け出なければならない。

第27条 毎年6月に健康診断書提出を義務とする。

第5章

一節 ワンデリング

第28条 企画ワンデリングには、役員会の任命するリーダーの参加を必要とする。

第29条 パートワンデリング（以下パーワンと略す）は、必ず部長に計画書を提出し、承認を得なければならない。ただし部外者を含む場合は、パーワンと認めない。

第30条 前条に違反したワンデリングは、当部の活動として認めない。

二節 合宿

第31条 部員は書く合宿に参加する義務がある。合宿は年1回以上参加しなければならない。

第32条 合宿の参加規程数に満たない者は、企画及びパーワンに参加し、役員会の承認によりこれを補う。

第33条 合宿に参加できない者は、部長の承認を必要とする。

三節 トレーニング

第34条 トレーニングは週3回とし、部員はトレーニングに参加する義務を負う。

第35条 トレーニングは係りの指示に従う。トレーニングに参加できない者は、理由を明記して係りに届け出る。

第36条 トレーニング規定回数に満たない者は、合宿参加資格を失う。合宿開始まで部が主催するトレーニング回数の3分の2とする。

第36条 企画ワンデリングの規定回数は3分の2を基準とし、参加資格は役員会で審議し、集
の2 会に於いて承認を得る。

第37条 トレーニング規定回数に満たない者は、係りの認めたトレーニングにより、それを補うことが出来る。

第6章 会計

第38条 当部の会計は、次の収入による。

- 一、入部金及び部費
- 一、寄付金
- 一、一般活動費及び体育会予算
- 一、その他

第39条 当部の会計年度は、毎年12月に始まり翌年の総会に終わる。

第40条 会計報告は総会において行う。

第41条 役員会で認めた活動には事故対策費を出さなければならない。

第42条 前条に於いて事故に遭遇した場合には、医師の診断書を添えて提出した部員に対しては、事故対策費を支払わなければならない。その他役員会で認められた事故の場合を含む。

第43条 事故対策費はその目的以外によって費やされてはならない。

第8章 附則

第44条 この規約は、昭和51年5月10日より施行する。

第45条 第36条の2は、昭和51年12月17日より施行する。



WANDERVOGEL

Okinawa International University
O. K. W. V

沖縄国際大学ワンダーフォーゲル年報（平成25年度版）

平成26年4月1日 初版第1刷発行

発行者 又吉拓哉（行政3年次）

編集者 奥間大亮（行政3年次）

発行所 沖縄国際大学ワンダーフォーゲル

沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

サークル棟3階307号部室

<http://oiu-wandervogel.jimdo.com/>